遠野物語。奇ッ怪 其ノ参

今は昔、あるいは未来――ある架空の国を舞台に語る「遠野物語」。
「伝承」はなぜ「事実」として書き記されたのだろう。
遠野物語を解き明かそうとしながら、物語に迷い込んでゆく物語。
奇ッ怪、奇ッ怪と言うけれど、これみな「事実」なり――。

この世とあの世の境目に迷い込んだ者たちが、奇ッ怪な話を語り合う。
語り、演じるうちに、語り手自身の物語が浮かび上がっていく。
「奇ッ怪 其ノ参」では「遠野物語」を語りながら、
語り手たち、つまり私たちの現在を問い直します。
「遠野物語」は柳田国男が不可思議な遠野の伝説を聞き記したもの。
「願はくはこれを語りて平地人を戦慄せしめよ」と序文にある。
昔話とも単なる怪談とも違う、孤高のテキスト。
柳田は「遠野物語」を世に出すことで、いったい何を語ろうとしたのか。
近代化が進む変化の時期に、「遠野物語」は出版された。
今「遠野物語」を語ることで、私たちが失って久しいもの、失いつつあるもの、
そしてどこへ向かおうとしているのか、
舞台の上で考えます。

［脚本・演出］＝前川知大